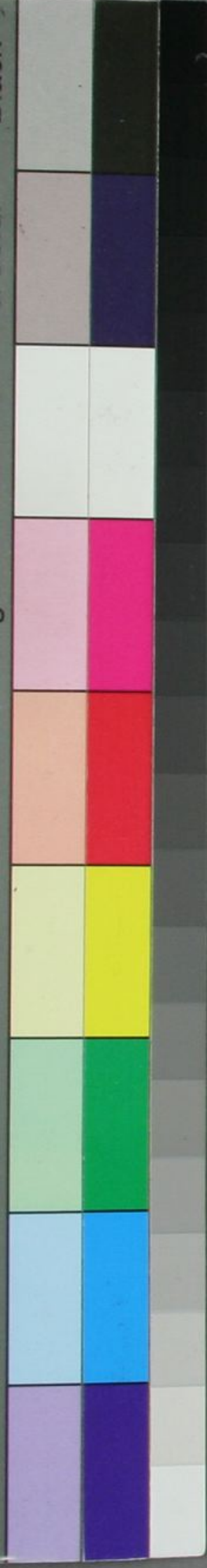


古今俳諧明題集

三

5
1529
3



門 利
 號 1.529
 卷 3



古今俳諧明題集煉部目錄

秋棟	角融	熱肉	殘暑	頓入	踊躍	暮春	夕殊會	七夕雨	六月五路	初葉	初煉	銀河	清水寺子日流	巾身靈	三井古女流	林善入	露	初暴風	煉鷹	海奴	茅細	煉螢	海	霧	送峯入	花砲	池	靈祭	七夕鞠	七夕	七夕
十一	十一	十一	八	七	六	五	三	三	二	二	二	二	四	五	七	七	八	十	十一	十二	十二	十一	十一	九	八	七	五	五	三	二	二
		後九五									後初玉																				

古今俳諧明題集煉部目錄

目錄

精鈴	後十二玉	阜螽	十三	蟋蟀	十四
紡績姑	十四	金透兜	十五	久於蟬	十五
獨角仙	十五	天牛	十五	蚕	十五
赤牛花	後十五 至十六	敗絮	後十六玉 十七	花敗絮	十七
筒	十七	蘭	十七	於枝花	十七
秋海棠	十八	旋復花	十八	桔梗	十八
勞銀花	十八	馬唐	十八	女青	十九
野菊	十九	鬱金花	十九	雀麥	十九
芭蕉	十九	萩	十九	稻花	十九
早稻	十九	海芋	十九	西瓜	十九
冬瓜	十九	壺蘆	十九	綠瓜	十九

刀豆	廿一	海落子	廿一	蕃椒	後廿一至 廿二
毛桃	廿二	一葉	廿二	荻柳	廿二
木槿	廿三	二百十日	廿三	八角	廿三
釋奠	廿四	海落子	廿四	栲栳	廿四
三日月	廿四	目石	廿五	月	廿五
名月	後廿五至 廿七	十五夜雨	廿七	叔生	廿七
沼駒	廿八	初潮	廿八	放水	廿九
案山子	後廿九至 三十	形石	三十	野和	後三十至 三十一
常紅田原	廿二	和多理	後廿三至 廿四	雁	廿二
加樵	廿三	桑鳥	廿四	湖本鳥	廿四
鶉	廿四	鴟	廿五	鶉	廿五

古今事考類聚卷之三

鹿	後五五
鮫	廿七
鮫魚	廿七
下藻	廿八
翠鴨眉	廿九
雞冠花	廿九
芒花	四十
藍花	四十一
零餉子	四十一
半莖栴	四十二
苗葉極	四十二
鹿	後五五
鮫	廿七
鮫魚	廿七
老法鮫	廿七
鰻鱺藻	廿八
風仙花	廿九
雁赤紅	廿九
蔓花	四十
牡丹根	四十一
芋	四十一
雲葉子蒜	四十二
菜極	四十三
鮫	廿七
海鯉棧	廿七
杜父魚	廿八
芝野	後廿八
紫苑	廿九
芒	四十
蕪卷	四十一
蓮實根	四十一
子海採	四十一
本賊川	四十二
苦冬栴	四十三

茯苓劔	四十三
五瓜	四十四
匏	四十四
沼出地	四十五
野文別	四十七
長衣	四十八
新酒	五十
霏	五十一
金擇	五十一
地珍	五十二
泥唐	五十三
葛草	後四十八
魚鱗打	五十一
爵人大水鳥蛤	五十二
弟青	五十二
松皮髮	五十三
柘櫟	四十四
白英	四十四
本犀	四十五
沼鏡像	四十六
宝市	四十八
榜衣	五十
露中	五十一
熊餉	五十一
紅葉餅	五十二
紅葉	後五十二
南玉燭	五十三

古今戸部明見集卷之三

目録二

賽^{ウメ} 五十四

栲^{カキ} 五十四

柑^{カン} 五十五

回青橙^{ダイク} 五十六

榲^{カヤ} 五十六

殊^{アキノムズ} 五十七

栗^{クリ} 五十四

梨^{ナシ} 五十四

包栲^{カウビ} 五十五

纓^リ 五十六

榲^{カヤ} 五十六

菁^{アキノクシ} 五十八

橡^{ドク} 五十四

松栢^{ザク} 五十五

金栲^{キンカン} 五十五

小^コ 五十六

菓^{コノミ} 五十六

古今俳諧明題集秋部

六月立殊

年^シ 涼^{シヤウ}

お^オ 全^{ゼン}

け^ケ 全^{ゼン}

殊^シ 京^{キョウ} 巴^ハ 白^{ハク}

殊^シ 音^{オン} 藍^{ラン}

初殊

た^タ 涼^{シヤウ} 兎^ウ

凌^{レイ} 麥^{マク} 林^{リン}

撞オシいしあゝのち〜や編カマ打戸 涼レイ備ビ
 吹フク落ク〜雲クモにニ若カあハ〜ハ出デるル船ネ 全ゼン
 耳ミミ〜ニ船ネ本ホ位イの馬ウマや〜船ネの船ネ 李リ北キョウ
 海ウミきキ〜ニやヤ様サマ志シ〜ニまマ〜ニまマ 瀾ラン洲シュ
 相アハの葉エフはハ精セイ識シ〜ニ海ウミや〜ニまマ〜ニまマ 如ニ岱ト
 蒲ヒヤクナリ葦アシ〜ニぬヌ〜ニにニまマ〜ニりリ〜ニまマの船ネ 作サク至シ
 際サヘのノ名ナはハ一イツ色シキ〜ニまマ〜ニまマの船ネ 紫ムラサキ苑エン
 庭ニ〜ニまマ〜ニまマ〜ニまマ〜ニまマの船ネ 可カ卿キョウ
 江ホリはハ地チ津ツ〜ニまマ〜ニまマ〜ニまマの船ネ 伊イ勢セ 浪ナミ
 大オホ江エはハもモ一イツ葉エフのノ〜ニまマ〜ニまマの船ネ 其ソノ江エ
 拾シツ〜ニ油アブ〜ニまマ〜ニまマ〜ニまマの船ネ 同ドウ 已イ翠スイ

愈ユもモいイひヒ〜ニまマ〜ニまマの船ネ 秋アキ
 海ウミたタのノ中ナカ〜ニ海ウミのノ内ウチ〜ニ入イ入イ 同ドウ 味アジ山ヤマ 川カハ
 月ツキ影カゲをヲ刺サ〜ニまマ〜ニまマの船ネ 江エ 乃ナニ 亦モト
 初ハジメ海ウミはハ〜ニまマ〜ニまマの船ネ 江エ 米コメ 鳳ホウ
 赤アカ〜ニらラ〜ニえエ〜ニぬヌ〜ニまマ〜ニまマの船ネ 布フ 川カハ
 何ナニ性セイもモ〜ニまマ〜ニまマの船ネ 上ウヘ 野ノ 曉アキラメ
 さサ〜ニ馬ウマ〜ニまマ〜ニまマの船ネ しシ 孫ソノ
 蓮レンのノ葉エフはハ〜ニまマ〜ニまマの船ネ 雨アメ 篁ササ
 暮ク夏カのノ何ナニもモ〜ニまマ〜ニまマの船ネ 江エ 正テイ 朔セツ
 瀛オキのノ帆フナはハ〜ニまマ〜ニまマの船ネ 凉レイ 伊イ 山ヤマ
 夕ユフ〜ニまマ〜ニまマの船ネ 凉レイ 伊イ 山ヤマ

古今行次月題集卷之三

七夕セキ

紅ききりどせや星の別きよき
 勢やおのがしるやひとりの橋
 親のあはれこゝろやし星を恋
 星の恋ん何もうてあはたしど
 言は家あえく川あり星の恋
 身半に穿みてはあはれも星は恋
 そ乃河で涙あはれ星のあはれ
 おりよと人にきせく星はし
 牛で来は氣も後うも星の恋

水

全 雲 郎
 玉 負 砂
 全 希 因
 全 涼 儀
 全 約

七夕雨 ちちせき

赤牛の傘をかめてや橋をく
 天園や雨にふそくく二のほく

支 考
 涼 儀

銀河 あまの

青いせいのあはれにうてあまのかは
 濃くさいねはながあまは下波
 あはれ人にせんく飲ませ下の河
 せびたしりりきぬ水や下のとく
 飛つ星の使はまげーの海をかは

其 角
 鬼 士
 梅 路
 青 藍

香玉^ヤ棟^トをともづ^ツふくゆくして^シるは
宿^ヤ波^ハくく^クる^ルづ^ツりて^テ出^デたり^リ天^{テン}の^ノ河^カ
地に^チ疾^シ流^{リウ}橋^{キョウ}の^ノ比^ヒ根^ネ矣^ヤあ^アま^マは^ハか^カく
さ^サく^ク流^{リウ}る^ル或^{アル}早^{サイ}も^モお^オほ^ホさ^サよ^ヨ流^{リウ}流^{リウ}
涼^{リョウ}体^{テイ} 貞^{チン}梅^{バイ}

七夕^{セ七夕}鞠^マの^ノま^マり^リせ^セき^キ

斜^{シラ}窠^ソ鞠^マの^ノ衣^イ取^{トル}る^ルの^ノや^ヤ質^{シツ}小^コ袖^{スエ}
織^{オリ}女^メ名^ナを^ヲき^キえ^エも^モゆ^ユう^ウ鞠^マは^ハき^キ
涼^{リョウ}体^{テイ} 貞^{チン}梅^{バイ}

文殊^{モンジュ}會^{カイ}

又^{マタ}殊^{ジュ}之^ノ名^ナを^ヲき^キや^ヤ流^{リウ}る^ル牛^{ウシ}に^ニ乘^{ノル}
京^{キョウ} 仙^{セン}結^{ケツ}

文殊^{モンジュ}今^{イマ}や^ヤ意^イに^ニ覺^{カク}き^キ思^{オモ}ハ^ハか^カ——
英^{エイ}律^{リツ}伊^イ丹^{タン} 鬼^キ貫^{クワン}

清水^{シズミ}寺^ジ千^チ日^{ジツ}詣^キ きよみいつてらせ
んふちまうで

出^デま^マい^イひ^ヒの^ノあ^アで^デふ^フ日^{ジツ}ま^マう^ウで^デり^リ神^{カミ}
け^ケ流^{リウ}る^ル子^コの^ノは^ハ指^{ササ}を^ヲ屈^{カク}つ^ツく^ク——
涼^{リョウ}体^{テイ} 風^{フウ}之^ノ

靈^{レイ}祭^{サイ} つたり

来^キは^ハと^トゆく^ク日^{ジツ}の^ノ短^{タン}は^ハよ^ヨ長^{チヤウ}ま^マは^ハ長^{チヤウ}り^リ
是^{コト}つ^ツ多^タく^ク ヒミ際^{サカイ}駒^{ウマ}や^ヤ瓜^{ウリ}を^ヲき^キび^ビ
靈^{レイ}柳^{リウ}や^ヤ柳^{リウ}せ^セを^ヲか^カへ^ヘ草^{クサ}は^ハく^クげ^ゲ
好^{コト}お^オハ^ハ音^ネく^ク些^サ——^{——}た^タま^マは^ハつ^ツり^リ
全^{ゼン} 全^{ゼン} 全^{ゼン} 凉^{リョウ}体^{テイ}

古今^{コキン}新^{シン}行^{コウ}明^{メイ}道^{ドウ}集^{シュウ}卷^{クワン}之三^{ノミ}

松板にこそとありせしをどりて
江 沅水
 船にいれにるもどりをとりて
 可郷
 巴は時紙捲へそどりの手登里は
可 可郷
 心を十ヲのけしききゆくをどりて
江 樓川
女 角能人の骨もやりしとどりて
士 兎士
 ぬ衣をりしとどりのどむ踊の那
 雲所
 系結しと髪を見にゆく踊の那
 一原
 をどり子や故に後のしりも交り
 凍体
 回しと去てはぬゆくをとりと那
 全

三井寺女詣 このてらを
人あまうで

三井寺中 夢家女もさむくち 波と

花炮 びまか

いろくの夢を見てぬく赤炮は
大和 千代
 再ぬさぐ人もまゝぬ赤炮は
 玄強
 襟くの麻さうさななびは
 阿波
 湯土の子はけりて居居花火は
 那言
 根にも居居ハ見えぬをびは
 萩丈
 園にもをりしとぬせぬ赤火は
信 李郷

古今詩歌集卷之三

頰 入のり

つと入やまの蓋にけちがひ
はと入やうの門帷を揚ぐ
つと入やホエ吹くひまきホエ拂蘇物も出ぬ
新入ハ水 茶とつと入もかきり
笑林
伊勢山田
宗乙
冠子
赤良
之梅

好林 善入 あきのや
ふいり

やぬいア中 踊 姉に去る 障 紙
林 善入や木の石 好月も好く 紙
雲和
永行

送 家入 ぶやくの
こけい

家入や秀を睫にくひ 志を
日ハ西のけささにはや 沼の家
こひ入や 麻拾入 杖うつ 我
汶上
白水
一胤

残 暑 のこさ
あつき

沼の部にまがひ 水くさい 暑さ
けちら小のこ 懸向つきや けちら 白
持る水 庭にぬき 記あつき さら 香
砂沼の屋ミ 沼るも 暑さ さら 香
川中にけちの 珠は 向つき さら 香
新ハまがひ 海へ 麻にけ 暑さ さら 香
素園
胡周
和鳴
李趙
一鼠
梅路

古今新撰 題集 卷之三

葉は身もすゝきぬあつさ
夏艸の段サカに海は河つさう
葉ミメカラのよりしけくおほあはさ

経 旭
一 鹿
詩 如
竹

露 つゆ

あゝあや梅にえさすふつ
ふあや野さの髪はくはく
土カハラケ盤ハ除ハあましくとみ何
あや草に草が青く
海の色はふさふさ
あましく月と来ると半

荷 兮
李 北
左 祇
正 俊
西 羊

あや歌に月日をそかへ歌

上 七 里 下
柳 出

露 さみ

あや梅ウメ花ハナはくはく
あや踊マユのりめてあましく
あや柄カマドのはしは露の中

藤 原 子 清
文 里
下 有

熱 閃 び

あつや山を麻アサはみゆ
熱閃や二三度に見てさ
あつや伽藍カラン小しては又

希 因
病 文
閑 工

あうくく日ハつるも海のは
 海伊や 鬱 鬱 憂うぬみをはく
 故のには 列 列 憂うぬみをはく
 村ヒツギに 折 目 の つくや 向 さい せ
 毛 栗 の 口より 出る 女 或は 至 歩
 葛 の 葉 此 ころ 是 来 伊 海 の 伊
 海 伊 や 草 八 冷 馬 希 因
 海 伊 や 草 び の 敷 ち あ 八 伊
 相 の 葉 を 走 八 月 け 海 の 伊
 海 伊 や 草 下 げ 伊 草 止
 海 伊 や 草 奴 芭 蕉 水 下 へ

芭蕉
 凉帟
 全
 全
 六 柿
 故 周
 希 因
 等 白
 如 丹
 下 丹
 斗 光

西の傍 馬 康 や あ 葉 走 下 歩
 以 折 小 野 二 に 教 伊 海 の 伊
 秘 株 網 に む 草 び の 水 下 へ

下 毛 伊 野
 伊 漢 言 を
 文 星
 武 傍 西
 葉 水

角 瓶 草 子
 皆 葉 の あ 伊 瘧 ハ 見 八 角 瓶 人
 草 子 伊 野 瓶 にも 土 へ 草 子 伊
 出 伊 草 び に 負 草 走 伊 角 瓶 人
 草 子 伊 野 瓶 の 草 子 角 瓶 人
 長 角 瓶 人 月 日 偏 草 伊 西 の 草 子
 人 草 子 伊 野 瓶 草 子 角 瓶 人

大 和 柳 木
 扇 計
 左 明
 吐 雲
 舌 芝
 眼 石

南北の人ハちいささ角カハ

鳥谷

秋鷹

あきの

鷺をやまけんく、鷺はく水ハ

千那

秋螢

あきの

懐柔につけ、減ゆく不、皆々香
低く、飛ぶ草や因麻屋く、う

鳳毛
五山

秋蝶

あきの

蝶くや今産海、草のい話

東奴

秋蚊

あきの

煙の蚊は柱まづくに、管、中
煙の蚊や麻にも中、身へ来、蚊

宣徳
雨石

茅蜩

あきの

日くくや持く、屋ても草、水、日、紙
ひくくや、ま、人の要、瓜、ま、ま、草
茅、柳、や、松、づく、に、徒、草、徒
毛、く、く、や、西、へ、伽、藍、の、光、侍、時
ひくくく、く、や、登、く、寺、ハ、侍、も、か、く

丹波良系
涼備
良柳
杉路
涼宇

古今行状明題集卷之三

日くくくやうふの志すひれ一里塚
ひくらーや鏡まきの侍表の歌
比久羅之や衣に自鳴鐘のせす侍表
むく死ーや衣にそす侍表
結ハコ 榊ツルギ
乙 疎
五 表

上毛お梅
高帆

蜻蛉トビ

つり子ツリコに一時やまむむ中むが小
遠山や蜻蛉トビ幸ゆさつひうへ歌
蜻蛉や鳴くぬかりりに侍表
荷ネく車侍水に侍キキルらんほハか
準ツ繩ハを見ミこコしてシてテ侍表ハ侍表ハ
全 梅 強
結 通
李 四
来 絨

蜻蛉や花ハをヲ概カにニ侍表ハ
らんラんンやヤ志シすスひヒれレのノ破ハさサ海ウミ之ノ
道ミチのノ美ミにニらラんンのノ破ハさサ海ウミ之ノ
鶴ツル鶴ツルのノ同ドウをヲたタくク中ナカむムがガうウ神カミ
蜻蛉トビやヤのノ小コもモせセぬヌをヲ乾ホシくク侍表ハ
そソろロかカ尻シどドあアてテ水ミヅ侍ハむムほホうウか
蜻蛉トビのノ縁ヘリにニ日ヒのノ垂タリくク蜻蛉トビたタうウか
蜻蛉トビはハ徒ツりリにニ侍表ハ後ノチーイあアのノ
蜻蛉トビのノ紙シ楯タテにニ雲クモくク蜻蛉トビたタうウか
むムまマびビめメたタもモろロくクおオひヒくク蜻蛉トビたタうウか
おオのノがガ月ツキにニおオおオおオひヒくクらんラんンがガ小コ

全 梅 強
結 通
李 四
来 絨

全 梅 強
結 通
李 四
来 絨

結のさざねのしりやまをくくも
カラス 雄小漏やたぐえくあましくは
 庭のつゆの下に物あまきりくも
 葉をひ得秀あうさしきりくは
 青周を肥かく出にりりあまくも
 立向に暮の志づくや隠障
 振く見は松は中やまきりくも
其村畧 素後
上毛系は 雨竹
能世七尾 太茂
下毛系は 綾女
同 旭路
 素輪

紡績娘 まつ
むい
 まつむいやいらく冷めても葉の香
 はゆむいやあのか頂の枝さびく
ま 活光
に 州披

金鐘兒 むい
 もとむいや海地のまへ晴はゆく
 琴詩

父都和牟之 漢名
未詳
 ひよりしてやさけんやくりと虫
上野 再機

獨角仙 か
むい
 系法がらとまづしてやかぬと虫
 東起

天牛 あ
むい

菱柳 蝦よりびりの 徒く 居侍

吳 木 因

奥 びー

重 賣や 野を 三アア 二けく 看に 並
あ あ〜 や 切〜 ハ 蝶 糸く 虫の 一 急

上毛古海 戸 外 負 至

牽牛花 があさ

あ けう かや 大エの 殊水 池ぶ 右侍
アさく かや 時ふに 秋の 見ゆ 海 中
船 かかや おのが 蔓〜 地 縁に 敷く
あさく かや 野の 花〜 梅く 並く

希 因 全 素 園 全

阿 比が ぬき 花や 本位の ねそ ろ〜 紅
安 左可 保や 伊に 毛ウ ぞく 柳ま ぶ
船 がかや 庭に 裁せ 海 間〜 紅
阿 さ〜 海や 短い 花〜 起る 紅
あ さ〜 ぼや 袋 遠〜 一 白
船 が〜 ぼや 見て 居侍 中 以 船が 一 白
と 系ハ 毛〜 船く かや 馬 本 一 白
あ さ〜 ぶか 榎 盤に 毛〜 概も 浦 之 一 白
葉 出 花や 松の 鏡 毛〜 一 白
船 が〜 ぶか やり〜 け 舟も 隈 一 白
あ さ〜 ぶか やく ぬい ぬ 船〜 居 侍 一 白

全 一 紅 南 蕨 涼 備 全 免 士 榎 居 可 樂 一 麻 心 秀 深 魚

敗 醬 をこか

穉人カガにまめさうほやをみかへー
 ことくハ先へまハほやをこかへー
 以こへんのおかーをこかへー
 赤色クサカリに野やかこかけをみかへー
 以クサカリく笑りぬ花やをみかへー
 海伊クサカリのあゆめくをこかへー
 桑クサカリ止子くくいちぬ惑を敗
 以クサカリ子クサカリはクサカリはクサカリどクサカリはクサカリひやをこかへー
 穉くクサカリの怪クサカリや押クサカリくをこかへー
全 封 希 具 全 後 浪 子 文
景 因 景 平 川 半 白 袋

ちぐくくく様の家ウハキ氣やをうぬへー
 あちくくく病もついでをこかへー
 以たてくくくの和女や平兵奈さく
 蕨ウハキ故枝ウハキは十二ひくくを英那英く
 三子のありけやけをみかへー
 祇 涼 以 西 麥
 棠 洲 秀 羊 林

白花敗醬 をこか

花塚にこがくくくをこかへー
 おやくちくくくハ苗字くくは花敗醬
 山のくをあげくくくをこかへー
 をとこへー花敗にひくくくをこかへー
猪 杜 祇 仙
白 門 十 牛

蘭うらは 蔓く中にぬらえは 東奴

蕙蘭らん

蕙アハのちかへんのまへや紫花紫花 凉節 琴時

胡枝花こぢかの

小刀コボのまゆもつら枝のまを 川夕 如巢上毛板鼻

秋海棠アキカイトウ

沼海棠サキ西丘のいろに霞サキ小うら 芭蕉 素ほはぬ山 清

旋覆花せんぷく

満ミツく金カネや糸イト練ネ子をひきちり 交風 百尋

桔梗ききョウ

夕タタ如カや桔梗キキョウの中へ清くゆく 如芥ほはれを

五六日 ぬくしう ぼく ちやうく ちやうく ちやうく
刈子に 級の出ま 宿格 枝小 似 竹

剪秋羅 せんを

大は 法におか い色し 寄 路 尾 子

馬唐 まとう

き 神し ちりり ちりり 花の 花の 花の
さす いくさ 見く の けに 入 寄 芭蕉 一 原

女青 めいせい

女青 めいせい

る ぞ こと 花 けり けり けり けり
祇の ちの 野 子 の けり ちの けり けり けり
依 東 起 雨

野菊 のきく

小 ちの けり けり けり けり けり けり けり
を ちの けり けり けり けり けり けり けり
黄 菊 けり けり けり けり けり けり けり けり
谷 ちの けり けり けり けり けり けり けり けり
十 阿 柳 琴 菊 字 僧 居 詩 院

鬱金花 うつぎんか

鬱 金 花 けり けり けり けり けり けり けり けり
丹 波 柏 原 院

雀 麥 かや
実う花う刈くもあ〜び雀麦ハ

紅字 楚仙

芭蕉 をせ

寒山に 綴ホいく見せ侍を歩城小
放泰の欠い〜ぞくををう那
いろ〜に日のこり〜芭蕉小
長あ〜は刻キ〜ををう那
切〜の久〜た〜ぬ波世辛う那

仙臺 桐原
江 白英
上毛前橋 來川
全 吹雁
桃岸

萩 をき

浪水のお〜も萩は材ロイ言〜

長 如行

稻花 いねの

竹〜退く花の伊や稲も花

殊午

早稻 よせ

涼〜さや子稲の多ひはをたり
早稲の多や 蟹磯まけ磯はを

麥林
支考

殊紫茄 あま

古今事類考 卷之三

刀豆

よめい

さくさくやひよりの種に漬く如

下段 孤帆

燈籠

ぶな

あつちや味は思ひの口小写は

一音

淡路やを忘るゝ火より

阿坡

ほはあやをのりて

市雪

蕃椒

らうが

目に海を志むは是しこゝか

大福 松

垣根にもくもを

信を 紫紅

一のりや文ゆく海や

貞丘 度江

桃實

のこい

神実の桃や三葉児に見せ居

下段 谷水

毛桃

けも

香別も知く毛桃の老に

曾呂利

一葉

むい

ぬはくと地に垂くすを

京 江棧

古今事類考 卷之三

鷄の冠毛をかき保一葉ウ那 白枝
 そりだけの月を落し一葉ウ那 其由
 晩鐘は百ハサくひとたウ那 崇江
 煙管は一十の消く一葉ウ那 大和柳本 孝文
 榴師の飛越く結一葉ウ那 双飛
 打繩工に席あせく一葉ウ那 也 有
 登るぬ人の下巻へひとたウ那 京 烏文
 上弦の中ハ見く一葉ウ那 仙衣
 長角カへ新目のあえ保一葉ウ那 桂露

散柳 ちるヤ
 ちるヤ

船底に大工のきやあなを成 一 嵐
 うらひきも展ねるちるヤ 柳 里 郷
 ひぐしーのゆきやそのてやあ柳 有 英
 と見祿を誦ハちるヤ 尾張 千 箱
 新以は美く杖保や殿やるあ 深 博
 路伊の新けりやあああああ 白 羽

木槿 げむく

阿ス 木槿 げむく 鬼士
 校おしむ皮の板さぬむくちるヤ 病 文
 四 五尺ぶあは居向木槿りあ 涼 備

古今片言明是身卷之三

古今戸部明集卷之三

極アケ路クシ々々夕日に見えぬむくげハ
捷アケ徑クシの鏡すはけくむくぢハ
及アケくくむをぬむくげハ

其葉

柳四
雲和

二百十日 にひやく
こをう

柳く二百十日を定めり
かりぬや二百十日の口もさみ

涼素
去路

ハッサク
八朔

ハ部申踊くをかりこま
ハ部申養理に影出は梅の花

麥林
起皮

ハ部申縮の袴を向たくく

成中の光
花言

煉釋奠 シヤクテン

吹くも海や夜のおくく

来也 来梅

煉彼岸 ヒガン

あさぐねと言座をたく彼者ハ
新菜は脚よにこまくく彼者ハ

汶上 尾地
病世

摺扇置 あかさ

屋くくくゆのくひまふ扇ハ

入楚

古今戸部明集卷之三

廿日

雁ひとの足定めて居く庭、那
とて寝て居てもあぬあふぶか
一歳

三日月 つき

さびしはは門に入りて三日は月
たのあけは枝まつふふや三日の月
是れは見えはしちし三日は月
見届けは本橋に入敷や三日は月
ははたはははははは三日は月
本の居くは免の身やみりはつき
去路

武子
丹

麦林

希因

一歳

洗者

其梅

去路

司召 つき
この座ハ橋女ははかさた
此君

月 つき

あうは粗の歯ふし家た月
月子は櫓ハ雨を掛か
あを吹け月のはくはあ
其角
芭蕉
紹巴

名月

名月や文く舞はのあひさ
全 麥林

名月や明ほいすに行あはる
 名月の舟や何そもあはる
 名月や伊さく見くそまき
 標槍のまぐにあそぶやうは
 ありくあぶなまき標やうの月
 名月や恋くそ見はれ見くは
 名月や人に寐くそ鶏もあ
 作白に寐くそあもあしは月
 名月や何を為さるあてゆく
 名月や何に何そぬも渾一とあ
 寐はにこそあはあはるはる

素因 全 希因 全 涼備 全 全 全 全 大坂 全 梅路 全

とを見ぬそは惜さやうの月
 二つとハ戸を放りせぬ月見はれ
 月見むとあけむそ一海酒はき
 五月雨に能く活く飛てうそ名月
 名月やこそいハ風のさう飛
 名月や名まおふいそがさ
 新しむも漁りうふのつき
 名月や見の字い活は海のもて
 名月や海籟ハおのが海くさ
 名月や尋はるの火を焚く
 名月や庵にそあも出れ

温故 祇虫 平砂 紀途 龍成 在精 再賀 大至 舊室 一康 あり

古今事類賦題集卷之三

名月や硯をるめは樓ハあは
名月や雪打く舞く街垣守
早ひよの火燵に持く月見小
名月や起漣くハ衣のうら
名月や橋に船のふはすま
飛ぶよのやうにたすく月見小
名月や雨に解散はたの海
名月や虚巻も浪にまうり
あさぐさ石にささるやりのつさ
名月や濁るはるよのハ表と本
雨山の梅くまき何よりかのつさ

名蓋
字趨
日
甲斐
泉布
萩丈
伊勢律
二日坊
代徳岩村
鶴山
荻帆
白杖
女に大は
雲裡
文庫

名月や雪打く舞く街垣守
早ひよの火燵に持く月見小
名月や起漣くハ衣のうら
名月や橋に船のふはすま
飛ぶよのやうにたすく月見小
名月や雨に解散はたの海
名月や虚巻も浪にまうり
あさぐさ石にささるやりのつさ
名月や濁るはるよのハ表と本
雨山の梅くまき何よりかのつさ

名蓋
字趨
日
甲斐
泉布
萩丈
伊勢律
二日坊
代徳岩村
鶴山
荻帆
白杖
女に大は
雲裡
文庫

古今事類賦題集卷之三

言をりく人を体の侍月見は

全

十五夜雨 志るこや
のあめ

名月や破雲へ侍らに ハナクリモリ 花下

涼体

雨雲小衣を姫やりのついで

炭焼

放生會 ハウシヤウエ

好桃雀や ヤカガ 燕まてつちく放生と云

麥林

人列く桑山子へりや放生會

涼体

合點く縁に麻屋思や放生會

洗雪

戸袋へこまひハ事さうはくしやう急

去原

駒牽并駒迎 こまひひき
こまむりへ

むさし野く能くそくへりりみの駒

涼体

駒牽やちの侍紫馬に牽つうは

江戶 蜂房

侍ひくと袂交自慢やりかまらあま

白川

とつけも侍野とハいとくく侍馬

複雪

駒ひきや半を逐ぬく駒はくく

涼体

駒牽や ツキケ 駒を引くく

水 涼体

弱くか人むくくしままむくへ

水 雀子

駒むくへくはかけくも年には侍

水 泥窟

くくへ侍ハ板東あやこはむくへ

水 芭叩

古今和歌集卷之三

駒^{コウゴ}やそよ月も肥くゆく

禹貢

すの^{コウゴ}松^{コウゴ}や舞舞又侍や駒^{コウゴ}也

百夫

驛^{コウゴ}に月ちくく^{コウゴ}とふはむく

紫藤

授^{テウ}煥^{チン}小礫^{コウ}との泥^ニや駒^{コウ}むく

許六

初潮はつ

神^{カミ}漁^{イサ}や着^キさぬ水もつ水^{ミヅ}ゆく

古由

神^{カミ}漁^{イサ}や細^{ホソ}い糸^{イト}に帆^ホけ

江嵐

志^シ不^フや鷄^{トリ}の尾^ビはぬきて

藍水

放水^{ハクスイ}

おこい

積^{ツク}家の^カ漁^{イサ}を^ヲ隔^ヘ消^シく

涼備

て^テく^クる^ルを^ヲ以^ヒて^テ放^ナす

雲郎

飛^{トビ}越^トし^シ海^{ウミ}星^{ホシ}ハ

破了

清^{スガ}子^コ洗^シへ

六柿

を^ヲ見^ミて

曲阿

お^オく^ク水^{ミヅ}極^{キョク}は

可昇

案山子^{アンサン}

奥^{ウチ}州^{シュ}の^ノ笠^{カサ}を^ヲ侍^シせ

史丸

冷^{ヒヤ}い^イの^ノ中^{ナカ}に^ニ枯^カれ

祇亟

そ^ソの^ノ水^{ミヅ}を^ヲよ^ヨふ

祇亟

古今片言明是集卷之三

廿九

依子^{イノムシ}生^シとおとあつ依^ヨ海^{ウミ}素^ス山^{ヤマ}子^コ子^コ
 零^{イモ}餅^コ子^コのちひらりるる依^ヨ素^ス山^{ヤマ}子^コ子^コ
 よもつぬ有^ア情^ニの中^ノにが^カ一一^ナ那^ナ
 吹^フまに依^ヨ子^コ子^コのちひらりるる依^ヨ素^ス山^{ヤマ}子^コ子^コ
 古^コく^クと櫻^{ウツギ}のちひらりるる依^ヨ素^ス山^{ヤマ}子^コ子^コ
 老^{キナ}海^{ウミ}老^{ロウ}婆^ハは^ハれ^レに^ニま^マつ^ツ依^ヨ素^ス山^{ヤマ}子^コ子^コ
 物^{モノ}い^イら^ラり^リも^モま^マゆ^ユか^カ一一^ナ那^ナ
 赤^{アカ}い^イら^ラへ^ヘ一^{イチ}人^{ニン}の依^ヨ素^ス山^{ヤマ}子^コ子^コ
 百^{ヒャク}と^ト男^{オトコ}の依^ヨ素^ス山^{ヤマ}子^コ子^コ
 ゐ^ニく^クを^ヲ鐘^ネつ^ツつ^ツろ^ロみ^ミう^ウ一一^ナ那^ナ
 了^シ医^イ者^{シャ}の依^ヨ素^ス山^{ヤマ}子^コ子^コ

百道
 青藍
 涼備
 全
 鬼士
 全
 麥林
 涼洲
 芳斗
 二毛
 左
 静

穉^コ少^シの依^ヨ素^ス山^{ヤマ}子^コ子^コ
 穉^コ跡^スの依^ヨ素^ス山^{ヤマ}子^コ子^コ
 長^{ナガ}目^メ遠^{トホ}目^メ差^サを^ヲ若^{ワカ}き^キも^モ素^ス山^{ヤマ}子^コ子^コ
 熱^{イナ}閃^{ツバ}の依^ヨ素^ス山^{ヤマ}子^コ子^コ
 人^{ヒト}里^リを^ヲま^マり^リて^テも^モ素^ス山^{ヤマ}子^コ子^コ
 躬^ミ旁^{ナド}の依^ヨ素^ス山^{ヤマ}子^コ子^コ
 遠^{トホ}目^メに^ニ依^ヨ素^ス山^{ヤマ}子^コ子^コ
 弓^{ユミ}杖^ヅに^ニ依^ヨ素^ス山^{ヤマ}子^コ子^コ
 舟^{フネ}の依^ヨ素^ス山^{ヤマ}子^コ子^コ
 静^{シズカ}は^ハ依^ヨ素^ス山^{ヤマ}子^コ子^コ

射堂
 維鳩
 江
 蘆英
 雲郎
 全
 洗雪
 同
 松前
 有
 隣
 雁志

那留古

田舎に人の層をー那留古
川ひよりのあはれをふるりな
棟船史の老をやーなれこ
本後の報はーや那留古
さひーはあつてもあなはこ
夕うーおまよハモー奈流古

凉 可枝 梅人 千婦 王才

野和幾

解魔法師の忍ろーうる海野
夜まー馬法まがた野

双飛 凉俯

鳴るに捧本のうごくはー
割札を先起ー海野
鶴鶴の起るハころぶ野
身唐ハ翼をーげー野
水多の河むぶ互に野
懐胎の海見ー岸海野
恙々ものかにかつー野
やまぬーハ月の出て見海野
新灘のあまー野和
捕花へまのまは角くのり
映鏡にやーをゆるかを野

全 兎士 去路 兎洲 長眉 深城 及上 萩路 凉字 映棠 末了

新編文月集卷之三

十一

くありは田圃に浦くく野りきう那

江 案山子

階階の投出さくく侍野りきう那

堵 充

鶏冠の砂あびて居侍野りきう那

甘 古

涼すやうくまおろくく野りきう那

琳 李

蒲菖若社一回にさくく野りきう那

花 明

一の家脊中をつむ仕りきう那

下 涼

交通帯へ葎のをさす侍野りきう那

丁 由

葎の出くけく疾野りきう那

乙 由

命入て、活も見えぬ野りきう那

古 由

株舟を一日流す野りきう那

全 一

常葉木の新くく野りきう那

一 承

笠紐の志まきく侍野りきう那

全 涼 戸

編笠を帯へ折る侍野りきう那

越 霞 舟

山鶴の尾に侍く侍野りきう那

涼 楓

細柳の家を押へ侍野りきう那

破 了

新子社種蒔く屋くのこ侍野りきう那

冠 子

常上は吸くく侍野りきう那

艾 梅

田圃や皆冷くく侍野りきう那

蓋 蓋

一時に備照野のぬけ野りきう那

可 也

剛力の松一疾く侍野りきう那

雨 管

人の手ぬ雑の中きく侍野りきう那

二 二

あの柿はやひくく侍野りきう那

二 二

何喰りぬ殺して居侍やまゐの尸
 今へまゝ後さざりやまゝ侍りま
 今 涼侍
 今 附鳳
 今 殘馬
 今 麥林
 今 瀾城
 今 許石

胡桃雀 ガヤマ

やはぐりや脊中又て居侍水まると
 吟風

お梅菫のくぐりぬけしうに梅まらふ
 兎士

桑鳥 まめは

冷ひ飽く居侍も見えもほめよハ
 鬼塚

断木鳥 てらついき

重圖へまゝ祈の表やてつき
 笑林
 啄本もや侍見おがえく飛ッへ侍
 鷹象

鷓鴣 らぶ

ニタまるとくハ怒さぬうづ
 笑林

破^ユ林^ガ層^ホの撮^サ金^チを^メ見^ル小^ハを^結ッ^カ
 同^ク若^ク中^ノへ^ハ一^ト出^ルカ^クづ^クド
 一^トあ^らぶ^とあ^まい^しと^うを^結ッ^カ那
 美^ノの^もぬ^きに^後に^あら^うづ^くを
 角^ス鯨^モ人^{トリ}を^砂ろ^うと^やほ^うづ^くか
 お^とく^しと^あけ^ぬづ^くづ^くづ^く
 沼^ノの^底も^とや^短し^く啼^くづ^く
 氣^ミみ^しに^衣を^ぬぐ^が結^くづ^くド
 雁^ノの^家を^ぬけ^く一^トあ^らう^づく^ド

鴉もむ

小^ハに
 大^ト阜
 万^{マン}有
 吟^{イン}風
 麦^{マキ}亦
 鬼^キ士
 伊^イ山
 伊^イ勢^{セイ}井^イ字^ジ
 巴^ハ山
 下^{シタ}路^ロ小^コ之^ノ川^{カハ}
 巴^ハ山

月^{ツキ}を^海へ^く披^ヒ杖^シし^衣も^もむ
 早^{ハヤ}い^しの^杉の^まづ^水や^野も^もむ
 九^ク鼻^ビ

鶴もむ

山^{ヤマ}に^さの^田も^何や^もむ^のま^え
 つ^くく^くは^浦を^林し^小田^もも^む
 梅^{ウメ}人^{ヒト}
 白^{シロ}扇^{アヒ}

帰燕つかめ

燕^{ツバメ}や^かへ^ると^うを^結ッ^カ
 路^チの^末尾^ノに^まゆ^くつ^かめ
 燕^{ツバメ}や^海の^あち^くへ^おく
 源^{ゲン}浦^ボ
 丹^ニ後^ゴ宮^{ミヤ}津^ツ
 路^チ鳥^{トリ}洲^{シマ}
 梅^{ウメ}

燕アサオキや 拾シッとさうゆぬかへアヤ
風フウ起オキも 来キ侍シく 寝ネつためど
煙エビ草クサを 吹フクくくは 燕ツバメうさ
起鳳 楚調 江相蝶

鹿 鹿

若ニヤウジの 衣イ 紙シ 格カク 家ケ 止ト バ月ツキ 中ナカ 入イ 敷
床ツク ぬ 控コウに 寝ネ衣イ 出デ して 阿ア 里リ 若ニヤウジ の 衣
二人 床ツク ぬ 若ニヤウジ も 出デ 来キ たり 床ツク ぬ 衣
宮ミヤ 柱ハシ 若ニヤウジ も 出デ 来キ たり 床ツク ぬ 衣
海ウミ 邊ヘ や 里リ ぬ 衣イ 出デ 来キ たり 床ツク ぬ 衣
床ツク ぬ 若ニヤウジ も 出デ 来キ たり 床ツク ぬ 衣

英徳は身 休大 涼体 希因 全 夢林 戸

飛トビ 渡ワタリ ハ 身ミ の 衣イ 紙シ 格カク 家ケ 止ト バ月ツキ 中ナカ 入イ 敷
少シ り 若ニヤウジ も 出デ 来キ たり 床ツク ぬ 衣
目メ 若ニヤウジ も 出デ 来キ たり 床ツク ぬ 衣
若ニヤウジ も 出デ 来キ たり 床ツク ぬ 衣
山ヤマ 若ニヤウジ も 出デ 来キ たり 床ツク ぬ 衣
常トコ 渡ワタリ の 衣イ 紙シ 格カク 家ケ 止ト バ月ツキ 中ナカ 入イ 敷
若ニヤウジ も 出デ 来キ たり 床ツク ぬ 衣
渡ワタリ の 衣イ 紙シ 格カク 家ケ 止ト バ月ツキ 中ナカ 入イ 敷
若ニヤウジ も 出デ 来キ たり 床ツク ぬ 衣
若ニヤウジ も 出デ 来キ たり 床ツク ぬ 衣
若ニヤウジ も 出デ 来キ たり 床ツク ぬ 衣
若ニヤウジ も 出デ 来キ たり 床ツク ぬ 衣

素園 野の 白枝 珈凉 梅隣 一扉 貞至 西羊 楚岫 多少 若戸

穿く付かるくくハ事ハ麻衣一息
まよいの故博さへりて若の衣
喫く付借若の衣領や麻衣衣
室の息多麻衣たり麻衣一息
間くは衣の聲や麻衣の聲一
角の代衣衣の衣衣衣麻衣衣
二日月を見よは麻衣の衣衣
麻衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣
麻衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣
若に衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣

上毛安中 蕪溪
祇翠
洗雪
茶來
東起
度江
伊勢大 麥推
可由
麥舟
波上

鱸

茅の葉に衣衣衣衣衣衣衣衣
八月の漁衣衣衣衣衣衣衣衣

維鳩
依依衣衣
ト二

鱒魚

古刀魚や網衣衣破衣衣衣衣衣

上毛小泉 石城

鮎

鮎釣や角衣衣衣衣衣衣衣衣

支考

海鰻

古今詩集卷之三

支考

網に又いさくやきく日中の敷
涼備
吹よりいさくにあつた海 鯉 獲
破了
拾はせぬ網の房 獲やいさくいさ
上毛お格
物 漁

過臘魚 さけ

おる鯉魚や弓くむくみ下きん
丹後漆
末 産
生意

老溪鯉魚 あさひ

おろすあさひあはくさひて流鯉はまど
宗 端
流鯉とくやカサキのをもとを流く
橘 産 寒 瓜

杜父魚鳴 かた

流はるく流鯉に「あか」のハ
汶 上

下 藻 やくだ

夕月も及くともふやうくも藻
常陸龍寺
儿 雲

鰻 鱺 築 やな

悠々たるく流はるく流はるくやな
ねおん村
投 厄

花野 のか

角おろす牛を、穿ちて花野うか
岸 虎

一音 登ナテ麦の末シあつちゆふき野の素
 魚遠 賢蹄ナけけく末のおきろきき野小
 流近江日野之 榴師の小柄におふきき野り那
 涼宇 ゆくゆく一糸の糸きぬき野りあ
 涼傭 着ウツくく馬に冷花寄花野りあ
 文東 刈ウツ茅子の扇を捨入花野りの如
 一鼠 留馬タを糸苞ウツへ投糸く波野りあ
 鳥朝 大橋ノリへあきき海波糸野りあ
 曾平 厥ウツく一絲のりきもてあのみ
 何因 家ヤあきく旭ヤは交教はなれあ
 門瑟 吾ウツたおかに見くゆき花野りあ

麥舟 麦は結糸くく星は花野りの那
 青藍 吸ホウぐく根を燒くゆく花野り
 全 南ホウ瓜の植をぬきにはなのか糸
 丹後金谷 翠蛾眉 月クサくさやゆに半輪サイあき居は
 音丘 鳳仙花 鳳仙ホウ花
 下毛足利 下毛足利 下毛足利
 梅種 下毛足利 下毛足利
 紫苑 紫苑

古今片歌明題集卷之三

野草かど折く見おろそは花小 笑好

雞冠花 けいけい

赤いさや圃あ〜〜〜ハナチ 霞て居居 カイ 去路
 笠目もまぐぬ寺や 雞冠 ケイコウ 花 ハナ 麦香
 そにかどに大草はよの雞冠花 ケイコウ 葉香
 雞と掃きき〜何やけい〜と〜ケイ 十の
 日あ〜りハ時も去〜き〜 雞冠花 ケイコウ 仙窓
 遠つ〜いに赤ハ霞〜く〜き〜ハ〜く〜け ケイ 一康

雁來紅 えいけい

葉を離衣にのふ戸葉けい〜 を 十の 千

芒 き

月を屋くカハ〜〜〜キ 幾々好 希因
 居〜〜〜〜〜のゆき芒々那 葉曉
 耳少〜〜〜の〜ゆき〜〜〜 去路
 携於汝鏡に赤〜〜〜〜〜 楓 カ 柳 リウ 中 チュウ

芒花 きか

赤い〜の野中にゆきをたぬ小 洗香
 標 マ 枝 エ 記 キ 一 香

けほを造りけし居ほき花々か
 かい袖を括く見せしほき花々か
 縁のふけ臥枝の麻や花をく
 是弱を懐きひさし歌き花々の那
 双生山まのふあふ歌き花々の那
 約岸のこころをく歌くをばか
 帆へふくゆの船ゆくをくか

琴詩
 許六
 深更加賀金沢
 王才
 見風
 祇徳
 未了

蘆花 あいの

單葉ヒナのふびくそくやきんのを
 船へ船目ハ大津しあーかん花

七門下安 湖宙
武 祇棠

蓼花 たでの

つくと妙ほ異さや蓼花
 襟くも蓼花冷く中花も時

百川
 士鳳

藍花 あいの

おのがきよに麻斑ゆひ了中藍の花
 負船へ折ほをうさもゆき藍の花

信濃善光寺 路友
 東起

牡丹分根 あけんの

ちるひるる秋してふけ牡丹

江戸 柳鼓

古今片歌明題集卷之三

蓮 實 脱 はすの
こぶ

蓮のうたハ情にもろくも、飛にりア
蓮は美や、飛にそころりしん穴
蓮のまや、海いまを、飛にん歌
蓮はくや、流しぬ水に、流るる飛

蕙本

終旭

伊勢山田
春渚

素菰

零 餘 子 こぬ
り

階梯のくむぶ、暮る、海ぬうで、
暖暑
有る

芋 いも

目をひて、海断、極、とあや、芋 圃 京 蝶 夢

草 綿 採 とど

おれくく、ちのみぬは、海や、海 圃 涼 備
くく、採や、油小、あま、くく、脊中、へ 大和外山 東 梅

午 夢 挽 こか
ひき

泥足のももむくく、午夢挽 東 起

蕨 臺 子 蔀 よか
く 祢

ろくろ、のま、おの、夕日の、海、
破了

木賊刈とくさ

百姓のふくもろくび本城刈
 瓜はるたーなむ里やとくさ刈
 ぬの目を休み城をややくさ刈
 へのつひハカト塵とれゆのく本城刈
 薩りゆき齒のゆく暮やとくさ刈

雙飛
涼洲
維鳩
青藍
西羊

茜草アケカタ極あく

白アケカタ穢の空見えくやうり茜草極

武八幡山
橘子

藥堀くさ

いんろくに席のまゆやくまゆ極
 芽菰に消く根も何で茶ほり
 馬ウマ医者に灸の痕アトゆくまゆ極
 ヒクキ首の灸アト度も落く茶ほり
 ほく不フの草にもさめてくまゆ極

汶上
千波伊勢
馬腹紀伊
時風伊勢
青藍

苦參挽ひら

積持のさくひあふり苦參挽

維鳩

茯苓ふく劔つら

古今片歌明題集卷之三

茯苓や劔を走つゝるの音

紫英

葦 獵 うたけ

葦 獵 やもるをそは持て居

上毛 錦林 耳 風

葦 獵 や糸は先を歌あかる

其 角

葦 獵 や我り子をむふれを

金 谷

葦 獵 やあさるがーたやこく

龜 文

葦 獵 や麻ハ人えく 獲てけび

下 管 吹

葦 獵 や月見海まぐと山先く

上毛 前橋 麥 兄

葦 獵 や橋の朽も少りかへ

城 後 如 柳

栝 樓 からま

魚柿うけまぎからま瓜

上毛 太田 烏 水

王 瓜 たま

たまつさやその蔓ハ皆ちり

破 了

葡 萄

まひ子に詠乳のねら葡萄小

李 北 茂 殊

隠れても葉に疎画くを菊つくり
去 旭 舟
 垣ゆるく霞さく入まじむ菊 圃
以 秀
 生の襟くとも水さくかたをか
五 糸 切
 季にるぬ沢中の交や草花
王 才
 たのミ法源より言しこさくはるか
涼 紙
 幸るに花偉くりせくこさくはるか
全

妹 離 像 あきさの

ス モトリ
 角 離 人の言ふてハ美ふはく系々
一 承

野 宮 別 のいみや

吹あはる地海もく山や小柴垣
丹 後 不 付 多 少
 野宮比事さくまに日く山くか
丹 後 不 付 東 柏

十三夜 じゅうさんや

柴舟の焚く燭しとる後を月
入 也
 下きありぬものを名いぐ十三夜
涼 紙
 後の月野山に始は動まらし
全
 船はもすしと影や後を月
全
 不形が鏡にのく山や後の月
雲 舟
 唐へ渡は飽のあやや後のつき
丁 系
 船はるぬ陸へるをし後のつき
鬼 回

古今片歌明題集卷之三

四十六

あゝさつの一とおがー後のつと
 素花
 妖々〜又侍女もを〜後の月
 笑林
 好夢の品を徳〜後のつと
 州羽
 宴も結縵州へ下りけす三友
 江風馬
 結草虫の家は志まらや後のつと
 巴人
 文〜〜
 下毛足利
 志
 石山へ障のつとあや後まつと
 山州
 水門の鍵はさび〜のちけつと
 一鼠
 夢もせぬ植のま〜や後のほら
 霞舟
 袂まで涙中ハあ〜りけらの月
 古硯
 あれり〜が黎の〜た〜と後のと
 瀾城

市袂を提〜とひやけちるる月
 双飛

寶市のたいら

袂穿る〜〜ふふかり侍月見うか
 芭蕉
 市は月り〜ハ九合の袂もか〜
 涼唄
 袂も子はあほが寝ぞり〜とる
 司鱸
 飲不〜と袂を枕や市は月
 柵居
 兼阿〜ハ素はも寝や市は月
 杜菱

長夜さよ

ち〜と衣や炎尋せんくは
 紡車
 破了

古今詩集卷之三

漆^ニ櫛^シのかきを又てもあはき
きさあやゆゆく右にかしこす
きさあや漏の徹^{トホ}はひしん松
涼^ニ備^シ 汶^ニ上^シ 瀾^ニ城^シ

夜寒^{ヨイソ}

悔^ヒをけしそをけそあきになにそ
あさふ乃一日^{サハ}幾^イそあきそ
欄^{ラン}干^{カン}の人をあきあきむそ
とよ山の松にちりそあきそ
麻^マ留^{リウ}のうつくしそあきそ
葉^ハ落^{ラク}はあきそあきそ
涼^ニ備^シ 砧^ニ上^シ 全^ニ 全^ニ 全^ニ 全^ニ 麥^{マク}水^{スイ}

不^フ備^ヒは涼^ニつそあきそ
履^リ衣^イ下^カの杖^カ帳^{チヤウ}に美^ミの入^イあきそ
物^{モノ}きだ八^{ハチ}崎^{サキ}に言^{イハ}そあきそ
か^カ涼^ニの障^{シヤウ}敷^{シキ}のあきそ
冠^{クワン}花^カのこ^コ氣^キもさめてあきそ
故^コのあきを摺^{ツラ}むそあきそ
栗^リ焼^{ヤク}そ枝^エにゆすくあきそ
羞^{シウ}に^ニ飛^{トビ}べ^ベ陳^{チン}もあきそ
り^リ尻^シもあきそあきそ
返^{ヘン}辞^ジそそ發^{ツケ}燭^{ソク}のにあきそ
塗^ツ桶^{ボク}に爪^{ツメ}もあきそ
可^カ登^{トウ} 冠^{クワン}子^シ 涼^ニ素^ソ 里^ニ朝^{チウ} 可^カ由^ユ 帶^{タイ}河^カ 太^{タイ}阜^フ 蝶^{テツ}角^{カク} 柵^{ソク}門^{モン} 梅^{メイ}圃^ボ 吟^{イン}風^{フウ}

古今詩集卷之三

四十九

寺にるゑんよのぞきひしき砵々那
 門あのおあききひしき砵々那
 杖杖杖杖あはせ侍ささめりか
 こゝろにハををくせき砵々那
 女房に剥きくやくや小衣ささめり
 毀他杖拍子にきくや或ゆりか
 絶頂くく宿見て居侍ささめりか
 守りくく麻に成侍ささめりか
 是あ少保きくくくへむ新酒小
 其角

新酒

樹仙

宜考

去路

雨石

希因

車宇

白陀

秀陽

位者の妹も君にあふ新酒小
 柳居

魚簾寺

あまきくくは麻布を寺あしりろ小
 汶上

露霰

おさくてもまきくくハほや露志は
 西条圃に粗のぬきよや露志は
 雲の今や宙りくつゆり
 菊はもももおにつく日や露志は
 希因

蘆錐

洗雪

涼帯

雲執 つゆ

高志りや懐まきに踏まにを侍

兔路 うさぎみち

峰越息 のをかこ

一とまを絶頂に湖や危の丁急

汶上

熊館 かぐまのた

本に熊の新や栗をゆきこぼし

丘鶯 かみやう

虫擇 むしえ

特名の袖をぬきにして重えりこ

破了

櫻ありに櫻あしと一重のあり
擇くくは繁も大津ぞ重なる数

貞室 京
梅里

爵入大水鳥蛤 むすめたいをいはい

に〜のて〜の砂水やむ〜も〜先

涼備

紅葉鯉 もみぢ

麻糸に〜のほ夕日やまみち解

汶上

地錦 つと

つ〜桂〜竹四ふなれあ〜し

芭蕉

赤松ぞおのが渚くさりつゝのいぬ

尾粟人

萬年青

これ

水くけく朱を研直におもとく
実にもくく申の四はまあひま

雨葉
維鳩

紅葉

これ

月むしのあうたておもお葉小
情たの思はくハ海くおもみち小
水おちくくくくくくくくくくく
船旁のくく吹くくくくくくく

希因
左菊
凉信
大阜

みりくはに麻のまむいどお葉小
乃山へ日ハ葉小はゆくくくくく
洞水の蓋深々へくくくくく
物の乾は京は晴くやくもみち
者かさぬ道をまきくくくく
はやくに雨の條くおもみちく
掃人の苗にも深れもみちく
洗濯へまきハつくくくくく
多ハ空深淵にまきくくくく
葉小は深まきくくく物くくく
泊岸に解もくくくくくく

一嵐
瀨城
麥林
阿坡
帛糸
白枝
柳居
伊山
左文
吼圭
芳楚

銀杏かいて

仮カまつつけカのりカのへカ粒カをカくカいカてカみカれカ

下弦施子
午仙

松不変色

まついろ
をかへむ

まのまマうマくマ海マにマまマふマうマりマ松マのマいマ海マ

加十

南天燭ナンテンロウ

まマつマやマ株マにマ海マせマうマかマけマくマ星マくマ

下弦施子
羽臣

賽珊瑚サイ珊瑚

じゆめも
どき

野ノにノくノくノ星ノくノしノうノめノもノどノ或ノ
洞ホ壑ラ時トハコ小ホ幸ラのホ室トやコ梅ホもトどコさコ
あアふアうアとアあアいアでア見ア海アやア梅アしアらア海ア
ふフあフのフ突フがフあフせフうフ先フりフしフらフ
見ミ海ミ人ミのミ鼻ミ志ミづミうミらミうミめミもミどミきミ

乙路
殊午
岷郎
少波
破了

栗クリ

あア夜キ粟リやキあアのキすキいキ足キのキ踏キこキしキ海キ
あア夜キ粟リやキあアのキすキいキ足キのキ踏キこキしキ海キ
あア夜キ粟リやキあアのキすキいキ足キのキ踏キこキしキ海キ
あア夜キ粟リやキあアのキすキいキ足キのキ踏キこキしキ海キ
あアちアらアりアやア毛イ襪ガもガ紙カにカ二カのカ三カのカ

凉侷
理帆
宗瑞
美白

回後の船シヤク子シら
おち栗ステゴ中ゴ 柿シヤク子シら
双飛下流見川 志中

椽子ゴ

じんゴのシ飛シ知シ盛シのシ暴シ作シハ
見風

柿カ

柿カの味カやカ長カもカもカらカも
仙老下流見川

梨カ

梨カのカいカのカいカ
壺洲下流見川

柘榴シ

柘榴シをシくシにシさシがシ柘榴シをシ
柘榴シのシ溜シハシ清シ之シはシくシろシをシ
柘榴シのシ実シ又シにシ見シせシ柘榴シをシ
三日月シのシ小シカシリシくシさシくシ語シなシ
又シ花シのシやシにシ実シのシさシくシ語シなシ
飛シくシ小シカシリシくシさシくシ語シなシ
笑牛シ 眠石シ 花明シ 六柿シ 雨石足利 涼宇シ 里楓シ 乙路シ 去路シ

新本キツを以て破にむせりゆく松栢キを

凉備

柑みみッ

神農も嘗てハまッみカトッを

帛岡

包橘ト

並好に良負のおふさかろト

再可

金橘クミ

金橘や喫イハ猫のオマハ

云ク自來カ

回青橙たい

回青橙のふ卦かハアクマクマク

陸奥越ツ用

饅頭柑んが祢

饅頭柑やんハクマクマク

仙臺 菊史

小袖ウ

小袖ハウマクマクマク

和名平戸 梅里

小袖ハウマクマクマク

千林

榧子ウヤ

さびーはやや方野を極子に思ふし海

江
桃隣

椎子 のあひ

草鞋に椎子もさすらうとおくしり
柱の突やまきくまべうまは見えしに

尺
涼俣

菓 この

赤坂蓋に滴の礪石このこりる

西
羊

殊 あきの
夕 あきの

樹幅をえたる遠きや海まくと

涼
俣

お歳暮とあたぬ袖や海の小
さびーが海系にふまや海の小
海の音系ひとの音をくらが先
ひそくと床にゆくもや海はく水
漕ぐゆく海系もあうく海の小
多起く水もくく海の小
空網にしく海系らや海はく水
逆旅婢 出 女 の 海 あり さ や あ きの の く 水
持 に ゆ く 海 は せ は や あ きの の 水

双 飛
六 持 ほは
兔 丈
士 高
青 藍
眠 石
芭 叩
千 竹 渡は
桐 谷 は
几 山

古今戸歌集卷之三

暮殊 くあさの

ゆく海やきのぬけは水に入侍
け 秋や善の後にハ不とぎ
小喜まのかがりハはびく 蕨の作
名の志まぬ雨に成りり 路まき
け 路や 香園 侍志まむ、かひとや
懐ひくよよに括く 路まき
け 路や西瓜の中に水 忠 喜
あ 秋のそを 傍りや 麦はしけ
け 路のそも 葉くいとく 侍ま
枝にあ保相の一葉や 路のく

尾

理然

越中諸川

知十

涼師

斗光

た菊

下院

松菊

伊勢山田

見風

越後

林雅

菖路

ま 牛蒡の枝ま 括く 海のく
葉 秋にま 葉ま 葉も あま 結る
そ ぬは ナスビ 秋のそ 葉 路のく
あ 瓜ハ 路中 秋 けに 路のく
あ 路のそ けに 葉ま 路

結

醉菊

秦亀

一鼠

梅路

麥林

古今和歌集卷之三

古今戶部易集卷之三



